

3 区・自治会が抱える悩みと課題

近年、都市化の進行などにより、自分たちのライフスタイルを優先し、面倒なことを敬遠する風潮や単身世帯の増加に伴い、区・自治会未加入者も増えています。区・自治会に未加入の主な理由としては、次のようなものがあげられます。

- ・役員の仕事が大変
- ・自治会行事への参加がいやだ
- ・永住するつもりはない
- ・共働きである
- ・会費の負担がいやだ
- ・日常生活には困らない
- ・近所付き合いがわずらわしい

これらの理由をみると、「自分本位」、「周りの人がやってくれる」といった考え方によるものが多いと思われます。地域全体の理解と協力によって自主的に運営され、地域住民の親睦融和と福祉増進を目的に、区・自治会が果たしている活動、役割を十分に理解してもらうことが大切です。

また、区・自治会の組織、運営に関しても、様々な悩みが生まれています。

- ・役員の負担が大きすぎる
- ・役員のなり手がない
- ・行事が多すぎる
- ・会員の高齢化
- ・会員の無関心
- ・集会場所がない
- ・行政からの依頼事業が多い

こうした悩みや課題は、簡単に解決できないものもありますが、これらの意見も認識した上で、区・自治会活動を進めることが、より多くの住民が参加できる区・自治会活動につながるのではないのでしょうか。

区・自治会の抱える悩みの中でも、役員の負担が大きすぎる、役員のなり手がないというものについては、自治会組織を支えるうえでの深刻な問題となってきました。

そのような場合、役割分担による負担軽減を検討してみることも一つの方法です。区長・自治会長一人に仕事が集中するような規約や体制になっていないかど

うか、組織を再度点検して、それを補佐する副区長・副会長を複数名にすることや役員間の仕事の割り振りを再検討してみることも必要です。

例えば、副区長・副会長を複数名に増やして、渉外、財務、事業などの担当を割り振ります。そうすることで、これまでよりも、区長・自治会長自身が出席する会合の回数を減らすことができるでしょう。

4 区・自治会の現状をチェック

区・自治会の運営はどうしても役員が中心となっていて行われることが多いため、区民・会員の声が届きにくくなっていることもあります。時には、活動内容、区費、住民の関心や意見、仲間意識などについてアンケート調査を行うのもいいと思います。口では言いにくいことも、書面にすることによって、いろいろな意見が出てくるかもしれません。

区・自治会活動も続けていくうちに、さまざまな課題が出てくるものです。その都度、検討・改善していくことで、効率的・効果的な区・自治会活動が図られ、魅力ある地域づくりにつながります。

5 加入促進の取り組み

(1) 区・自治会の必要性を再認識しよう

鹿嶋市内には、98の自治会がありますが、加入率は急速に低下しています。平成17年度には64.2%だった加入率は、平成29年度に49.8%、令和7年度には40.5%になっています。

《加入率の推移》

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
加入世帯数	15,033	15,023	14,973	15,316	15,249	14,683	14,626	14,452	14,335	14,278	14,286
常住人口世帯数	23,413	23,855	24,328	24,906	25,452	25,775	25,392	25,849	26,203	26,648	27,022
常住人口数	64,125	64,781	65,081	65,513	65,785	66,093	66,562	66,688	66,700	66,802	67,879
加入率	64.2%	63.0%	61.5%	61.5%	59.9%	57.0%	57.6%	55.9%	54.7%	53.6%	52.9%

	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
加入世帯数	14,176	13,846	13,861	13,810	13,516	13,100	12,741	12,428	12,108	11,648
常住人口世帯数	27,448	27,789	28,147	28,417	28,694	28,948	28,483	28,596	28,764	28,779
常住人口数	67,754	67,802	67,578	67,448	66,950	66,657	65,980	65,417	64,957	64,251
加入率	51.6%	49.8%	49.2%	48.6%	47.1%	45.3%	44.7%	43.5%	42.1%	40.5%

■ 5 加入促進の取り組み

①区・自治会の必要性

「自治会への加入にメリットを感じないから入らない」という価値観も増えていますが、本当にメリットはないのでしょうか？

自治会がないと、何か問題が起こっても地域での合意形成が難しいことから解決に時間がかかるほか、まわりの団体や行政に対して十分な要望や提案などもできません。

また、東日本大震災などの災害時、一刻をあらそう状況では近隣の人々の協力によって救出されたケースも多かったそうです。

混乱している状況では自治会員かどうかは関係なく、地域の人たちが力を合わせてできることをやる必要がありますし、会員でなくても公民館などに避難することはできますが、避難所での生活は合意形成・相互理解のある一定の組織力がある中で協力する方が、スムーズにいきます。

ほかに、地域の行事に参加することで、子どもから高齢者まで、幅広い世代と接することができます。様々な活動を通して地域でコミュニケーションをとる機会になり、絆を深められることから、困ったときには気兼ねなく力を借りたり貸したりと、助け合える良好なご近所関係を築くこともできます。

困っていないときではなく、困ったときに助けになる存在。自治会はいわば安心保険なのです。

②加入促進活動について

加入促進活動では、自治会加入の意義をしっかりと説明することが必要です。各自治会で特色のあるチラシや自治会の事を知ってもらえるパンフレットなどを作成しましょう（地域づくり推進課では、オリジナルチラシ作成のお手伝いをしています）。

そして何より、加入促進活動を行う皆さんが、加入してもらおう熱意をもって加入促進を行わなければ、未加入の世帯を説得することはできません。また、できる限り個々の世帯に合った取り組みを行うことで、円滑に自治会等への加入を促しましょう。

また、自治会への加入促進活動は地域や世帯の事情によって異なります。例えば、転居して間もない世帯と、以前から住んでいながら未加入である世帯とは、自治会等に参加していない点では同じですが、それぞれ加入への働きかけは異なります。

◆新しく転入してきた世帯

考えられる特徴

- ・新しい地域に住むことへの期待や不安
- ・加入について、どこに相談したらいいかわからない

◆以前から加入していない世帯

考えられる特徴

- ・加入しない理由がある
- ・自治会が何をしているか知らない、関心がない

上記のように、各世帯で状況が異なります。個別の状況に応じて加入案内を使い分けるなど、きめ細やかな対応を心がけましょう。

③加入促進活動の心構え

加入促進活動について、自治会全体で共通理解を持つことが大切です。また、未加入世帯の現状をきちんと把握することが、より適切な取り組みにつながります。

ア. 体制を検討する

単発的な取り組みではなく、働きかけた情報を自治会内で共有し、今後の取り組みに反映させる体制をつくりましょう。

加入促進活動の進め方や情報をまとめる担当を置き、組織的に取り組む自治会もあります。やむを得ず一部の人で取り組む場合、いつ、どのように加入を呼びかけたか、きちんと引き継げるようにしましょう。継続的な加入促進活動は自治会加入率の低下を防ぐ手立てとなります。

イ. 役割を分担する

加入促進活動に関わる人を増やすことで、みんなで取り組んでいるという意識になり、個々の負担の減少や、より効率的な働きかけにもつながります。

ウ. 情報を共有する

未加入世帯の情報・・・「新たに転入」と「以前から未加入」の世帯では状況が異なります。

活動の結果、問題点・・・加入に至らなかった場合も、取り組みを検証し、今後に活かしましょう。

エ. 今後の取り組みに反映させる

実際の加入促進活動では、さまざまな問題や課題が生じることがあります。

■ 5 加入促進の取り組み

より効果的な働きかけができるよう情報を共有し、役割や体制を見直していくことも必要です。

また、どうしても加入に結びつかない場合は、視点を変えて接するようにしましょう。

自治会に未加入であっても、同じ地域に暮らす仲間です。自分の住む場所が安全・安心・快適であって欲しいと望まない人はいないはずです。自治会に入らない場合は、せめて、地域の環境を維持する活動（一斉清掃や草刈り作業等）への協力を呼び掛けましょう。具体的には、その作業予定時間や場所、持参するものなどをメモにしてポストに入れる、または、掲示板などを活用して、周知するといいでしょう。

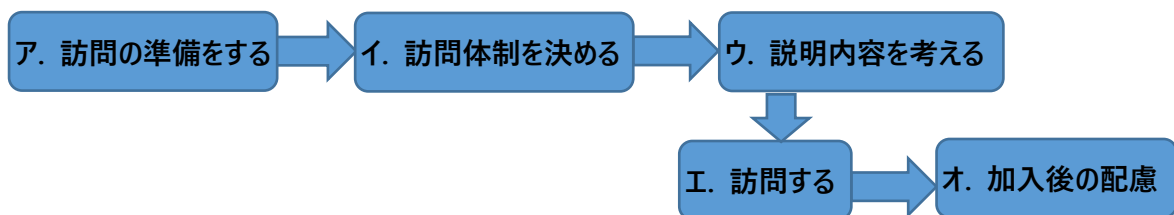
そのような作業に初めて参加する世帯では、「何時から何時くらいまで、どのような内容の作業なのか」という情報がないと不安なものです。

地域のことを把握している自治会が中心となり、同じ地域に住む人たちが協力して取り組めるようにみんなに声をかける。例えばはじめは理解されなくても続けて働きかけ、仲間意識をつくりながら、理解してもらうことを目指しましょう。

（２）加入を働きかける

加入を促すうえで最も大切なことは、自治会の活動を知ってもらうことです。活動内容やメリットを十分に理解してもらえると、加入につながりやすくなります。各世帯への訪問は、直接それを説明できるよい機会であり、訪問したことで加入に至る場合が多いため、基本となる取り組みといえます。訪問の流れを意識し、効果的に加入を促しましょう。

①訪問



ア. 訪問の準備をする

活動内容や組織体制の説明などを行うときは、口頭で説明するより、資料をあわせて提示する方が伝わりやすく、理解もされやすいです。

＜準備するもの（例）＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

◆あいさつ文

新規転入者には、自治会一同で歓迎しているという気持ちを表しましょう。

◆自治会の概要チラシ ・ 加入申込書等

自治会の概要や活動内容をわかりやすくまとめたPRチラシを作成（活動の写真なども）して、加入促進に役立てましょう。

会費はいくらか、どんな活動をしているのかなどのほか、訪問した世帯が自治会と連絡が取れるように連絡先も記載しましょう。

加入申込書は、自治会運営に必要な項目を用意し、情報の取り扱いに注意しましょう。また、個人情報の取り扱いに配慮した一文を添えるとよいでしょう。

◆自治会の規約・役員名簿・行事予定等

自治会の組織等を説明するときに使います。

◆ごみカレンダーやごみ分別のガイドブック

ごみの収集は生活への関りが深く、未加入者が関心を持つきっかけになりやすいです。

また、利用者同士のルールをしっかりと伝えておけば、後々のトラブルを防ぐこともできるでしょう。

◆もうひと工夫

資料をきちんとファイリングして訪問した世帯に渡すなど、配慮をすることでよい印象を持ってもらいやすくなります。

イ. 訪問体制を決める

訪問の準備をしたら「いつ」「誰が」「何人で」訪問するかを決めましょう。

◆訪問時期

- ・転入世帯への訪問は、居住開始後、間を置かずに行うと効果的です。
- ・以前から未加入の世帯には、行事の開催に合わせると訪問しやすくなります。

◆訪問時間

- ・食事時や夜間はなるべく避け、相手が対応しやすい時間帯を選びましょう。
- ・初回に時間をかけすぎると、かえって逆効果になる場合があります。簡潔な説明を心がけましょう。二度目の訪問をする場合は、相手の都合を聞いて訪問しましょう。

◆訪問者

- ・自治会や班長など、各自治会の体制や実情に応じて決めましょう。また、初回の訪問で加入を拒否された場合には、訪問者を変えるなど工夫してみましょう。

◆訪問人数

- ・慣れないうちは複数人での訪問も検討してみましょう。

ウ. 説明内容を考える

訪問体制を決めた後は、訪問時に何を伝えるかを考えましょう。

- ・行事や活動内容を説明するとともに、災害時に大きな力となる自治会等のメリットを伝え、関心を持ってもらうことが大切です。また、集会施設の維持補修など、地域みんなのために会費が役に立つことを伝えましょう。

■ 5 加入促進の取り組み

- ・新規転入世帯の場合は、居住開始直後に訪問し、ごみ出しのルールについて説明すると、自治会等の必要性を認識してもらいやすいです。

エ. 訪問する

訪問時のやり取りの一例です。自治会の状況に応じて説明内容を変更し、工夫・充実させましょう。



こんにちは。私は〇〇自治会の会長（役員）の□□です。今日は自治会の説明に伺いました。資料をお持ちしましたので、ご覧ください。

こんにちは。ご苦労様です。



当自治会では、〇〇や〇〇などの活動を通して、助け合いができる近所づくりを目指しているので、何かお力になればと思います。

* 防犯、防災、親睦活動などの実際に行っている活動の説明をしましょう。

〇〇祭りなどがあるんですね。



はい。子どもたちも喜んで参加してくれていますよ。準備などは手分けしてやりますので、何か手伝っていただけたらありがたいのですが。皆で楽しめるようなお祭りにしましょう。

時間があったら行ってみます。



他に何かわからないことはありませんか？
簡単な説明になりましたが、ぜひ、〇〇自治会に加入してください。

説明後の反応によって、対応の仕方が変わってきます。

◇加入の意思表示があった場合

その場で申込書に記入してもらいましょう。

加入後は、総会や役員会などで紹介したり、日頃から挨拶や声かけをしたりするなど、できるだけ早く地域・自治会になじめるように配慮しましょう。

ただし、加入者にとって負担にならないように配慮する必要もあるでしょう。

◇加入について決めかねている場合

資料を渡し、「後日再度お伺いしますので、ご検討ください」と伝え、交渉記録を残します。

後日、加入の確認をするときは、必要であれば相談に乗るなど、決めかねている原因を確認することが大切です。

しかし、相手が負担に感じてしまうと逆効果になるので、状況によっては少し期間を空けたり、訪問者を変えたりするなどの対策を講じましょう。

◇初めから自治会の役割を否定する場合

まず相手の言い分を聞き、理解できる部分については共感しましょう。

加入を断られた場合でも、打ち解けられたら地域の状況を説明し、何か得意なことで自治会活動のお手伝いをしてもらえないか、また、一斉清掃などは自治会員に限らず、一人でも多くの参加を募りたい旨の説明をするなど、同じ地域に住む仲間だという意識を持ってもらうように努めましょう。

（３）退会予防の取り組み

加入促進活動に続いて、加入後も自治会等の意義や必要性を実感してもらえるよう取り組むことが、住みよいまちづくりにつながります。また、役員や会費に対する負担感は世帯ごとに異なります。できる限り個別の事情に配慮し、退会者を出さないよう工夫しましょう。

＜日頃の取り組み＞

◆顔の見える関係づくり

災害時など、いざという時のため、日頃から顔の見える関係づくりを心がけましょう。

◆自治会の情報を周知する

自治会の活動を、積極的にお知らせしましょう。会員は必要な情報を得ることができますし、活動に参加することで、自治会等の意義を実感できるでしょう。

■ 5 加入促進の取り組み

◆個別の事情に合わせた運営

ひとり暮らしや高齢者、障がいのある人にとっても負担になる場合があります。役員選出を理由に退会者が出ないように、自治会内で十分に協議しましょう。

また、会員の減少に伴って、役員のなり手もない（役員をやらなきゃならないから退会する）自治会も増えています。会長をはじめとする役員は、自治会を運営していくための要の存在です。特に、退職年齢が延長になっている近年、職業を持ちながら役員を担うことも多く、負担も大きくなっていることから、自治会の組織運営に工夫が求められています。

例えば、子どもたちの登下校の安全を見守る活動であれば、役員だけが立哨指導するのではなく、地域の高齢者の散歩の機会も活用できるでしょう。これまでの運営方法や実施する内容にとらわれず、見直してみましょう。また、会費や運営について、役員だけでなく、会員の提案や意見にも耳を傾け、十分に検討しましょう。一方的に押し通すと、理解が得られず、退会に繋がりがやすくなります。

（４）他自治会の加入促進・運営工夫などの取り組み事例

- イベント会場での加入呼びかけ
- 退会される方へのアンケート結果を運営に活かす
- 年齢や身体の状態による役員の免除等
- 自治会の魅力を伝える冊子を作成して配布
- イベント案内チラシの裏面に自治会加入案内も記載して配布
- 近隣自治会の合併
- ホームページを作成し、若年世代にアピール
- 会費の集金頻度の工夫
- 行事数を見直して、高齢者の多い地域の穏やかなつながりを実感
- 役員の他に行事の実行部隊を選任
- 集会所の貸し出しが自治会メリットになり再加入
- 災害時救助のための「世帯票」を未加入世帯にも依頼
- 入会者マップを作成して地域の状況把握
- 地元の事業者への自治会入会推進（役員は免除）
- 学校やPTAと連携して若い世代の参加を促進
- 子ども食堂実施による多世代交流
- まちづくり協議会や社会福祉協議会との密な連携で住みやすい地域づくり
- 世代間交流事業は伝統文化の継承で
- 子どもが主役の魅力ある行事
- 一戸一美「通りの文化祭」運動（未加入者にも環境美化運動への参加呼びかけ）
- 土砂災害危険区域の緊急ネットワークで住民同士の関係強化
- 自治会安心・安全メールで自治会加入のメリット創出

6 住みやすい地域づくりのために

区・自治会は、そこに暮らす方々がお互いに手を取り合って、共に考え、住みやすい地域にしていくための組織であることが必要です。

そのためには、地域で起きた問題、区民などから出される要望や意見などを集約し、地域全体の課題として十分に話し合っ、解決していく機能を高めていくことが大切になってきます。

自分たちの区だけでは解決できないことでも、地区内の他の団体や隣接する区・自治会と協力することで解決することもあります。また、専門的な知識や技術が必要な場合には、NPOや学識経験者などと連携することによりさまざまな相乗効果が生まれます。

近年では、独自に地域課題の解決に取り組む主体的な区・自治会が現れてきており、区・自治会の役割も変わる兆しがあります。また、区・自治会が媒体となり、住民と自治体、企業などとの共創による活動が実現する例も出てきています。

市民と市民、市民と行政がお互いに目的を共有し、一緒になって考え、ともに解決していくという共創によるまちづくりの仕組みのもとで、地域課題の解決や魅力ある地域づくりに取り組んでいくことは、愛着の持てるまちづくりにつながっていきます。

区・自治会には、これまで培ってきた経験と実績を礎とし、地域の持つ魅力や資源・特性を生かしながら、環境、福祉、防犯・防災などのあらゆる分野において、活動することが期待されています。地域力を培い、区・自治会を通じて地域が一体となって、暮らしやすい地域づくりのために活動していくことが大切です。